



良き伴走者になる

「伴走者(ばんそうしゃ)」とは、視覚障がいのあるマラソンランナーのそばを走って方向を示したりするほか、給水場所を知らせたり、障害物を知らせるなど、安心して競技に取り組めるような役割を果たす人をいいます。

伴走者が自分の実力や「より早く」といった一方的な思いで走ってしまうと、ランナーは置いて行かれてしまいますし、逆にランナーに実力があつて気づけば伴走者が遅れている、ということでも困ってしまいます。

主役となるランナーを支えるためにいるのが伴走者なのです。つっぱしついても遅くても主役を一人にしてしまつのであれば、伴走者としての意味はなくなってしまうのです。マラソンではなくても、子どもが学校に行くことので

できない状態、いわゆる「不登校」の状態の家族と話しをする際に、私はよく「良い伴走者になりましょう」と話すことがあります。学校に行くことのできない状態というのは、何かのきっかけで誰にでも起こり得ることではありますが、原因は本当に様々です。学校での対人関係のトラブル、学業不振や勉強のプレッシャー、家庭の問題、「なんとなく」といった理由など従来から言われてきたような原因に加え、最近では本人が何らかの発達障害を抱えていて、頑張ってきたのにある日突然破綻してしまうようなケースも多く見受けられるようになってきました。

一概に「不登校」というくくりでも、その背景は聞いてみないとわからないことが多々あります。

「まさかうちの子が不登校になるなんて」と学校に行けない事態を認めることは家族にとつては切ないことですし、自分を責めたり、誰かを追及するなど原因を探そうとします。

また当然のことながら家族は「どう接したらいいのかわからない」「子どもはどういう気持ちなのか」「私たちにできることは何か」といつまで

続くのか」のように不安で混沌(こんとん)とした気持ちになってしまいます。原因は一つではありませんし、それぞれの子どもや家族の個性もありますので「こうしたらいい」という特効薬のようなものはないのですが、確実に言えることが「家族が良き伴走者になりましょう」ということなのです。

話しを聞く中から客観的に子どもや状況を捉えなおすこと、その上で、子どもが復帰するために必要な環境調整があるのならば、関係者や関係機関と相談を重ねることが大切です。

しかし、子ども自身にとつては家族が焦り過ぎてもゆっくり過ぎてても、子どもが「おいてけぼり」になつてしまつのです。

誰もが伴走者としては素人です。時間がかかることもあるかもしれませんが、子どもにとつて、現状を打破してその子どもなりに道を見つけるための大切な要因なのです。

伴走する人やいろいろな役割の人がチームとなり、サポートしていただけることを知っていただき、いざという時に「良き伴走者」という気持ちを出せるといえますね。

追分宿郷土館  
「子ども歴史体験〜冬の手仕事講座〜」  
開催のお知らせ

★はたおり体験をしよう！

とき 3月11日(土)  
1回目 9時から  
10時30分まで  
2回目 10時30分から  
12時まで  
講師 浅沼 真知 先生  
定員 各8名(計16名)  
持ち物 綿の布 ハンカチ2枚  
程度の大きさのハギレ  
など(ガーゼは不可)  
材料費 200円

★七宝焼きを作ろう！

とき 3月24日(金)  
9時30分から12時まで  
講師 土屋 幸江 先生  
定員 30名  
材料費 400円

★万華鏡を作ろう！

とき 3月26日(日)  
10時から12時まで  
講師 小市 景子 先生  
定員 20名  
材料費 200円

★つる細工を作ろう！

とき 3月23日(木)  
9時30分から  
12時まで  
講師 土屋 真知子 先生  
定員 20名  
材料費 400円



【申し込み・問い合わせ】  
追分宿郷土館  
☎45-1466

※小・中学生が対象です。  
3月2日(木)8時30分より  
電話か窓口で申し込みください。  
定員になり次第締切りとなります。  
水曜日は休館日です。